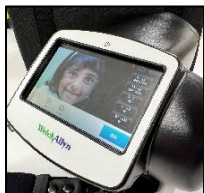


| | | | |
|------|--|------|----------------------|
| 事業名 | 子どもの視覚認知評価の実施および個別支援の提供 | 事業ID | 2020557663 |
| 助成機関 | 公益財団法人日本財団 | 事業期間 | 2021年4月1日～2022年3月31日 |
| 評価機器 | スポットビジョンスクリーナー/ひらがな読書チャート・小田氏読書チャート | | |
| 活用機器 | iPad(フォントサイズ変更・背景色とフォント色の変更)/傾斜台/拡大読書器 | | |
| 目的 | 活用事例をもとに一般化し、例示として公表することで具体的な支援方法を普及する | | |

評価機器の活用について

[スポットビジョンスクリーナー]



視機能の基本的な機能（近視、遠視、乱視、不同視、瞳孔不同、（非対称な眼位））について評価を実施。視機能的な課題を評価、抽出した。視機能の苦手なところを把握し、環境設定に必要な情報のベースとして活用。

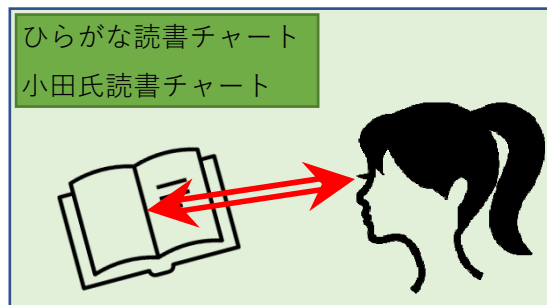
[ひらがな読書チャート/小田氏読書チャート]

特別支援学校（盲）でも活用され、実用的な読書距離を測定。左図のように実用的な読書距離などの読書環境を測定する。

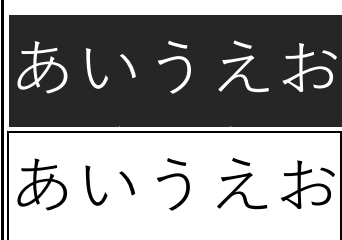
特にひらがな読書チャートでは実用的測定、フォントサイズ、（背景白・文字黒）対（背景黒・文字白）の読み速度の差異などにより、どの読み環境が最適かを検討。ICT機器や電子教科書の活用を念頭に当該児の生活様式を検討することができる。

小田氏読書チャートはひらがなとは認知様式が少し違ってきたり、読むためには細かく見る力や漢字を把握する視覚認知力も必要となってくる。そのため漢字の読みには最適なフォントサイズはひらがなとは違うのは当然のように起こりうる。そのためひらがなよりも大きくなることも考慮に入れた読書環境の設定に活用していく。

そして漢字の読みに関しては実用的な読書スピードや意味理解の効率にも大きな影響をあたえるため、「ひらがな」対「漢字」の中で実用度が高まるよう最大限の最適化の材料とする。



支援環境の構築と子どもによる主体的な機器の活用について



[iPad/傾斜台/拡大読書器]

左図のように、文字が背景色に閉鎖される、されないによって文字認識は変化する(図地弁別)。読み書きの苦手を持つ子どもは背景色と文字のコントラストや文字の閉鎖により、効果を上げることがよくあり、それらをスマートに解決してくれるのが「iPad」をはじめとするICT機器である。2021年度、電子教科書が学校に取り入れられ、子ども一人タブレット1台時代。誰でも気軽に取り入れ、子どもが自分で活用できる下地が学校に揃った。

そのため各読書チャートの結果に基づき、学年相応の漢字に最適なフォントサイズを検討して、実際に活用できる環境整備が進められるようになった。その際、必要であれば、読書環境に傾斜台の活用など、より積極的に活動可能時間が延長できる体力的に楽な環境にする、単純に読みやすくするなど、こだわりのある支援計画を作っていくことが必要となる。そしてICT機器が使用できない環境でも先述の傾斜台、拡大読書器により改善できることがある。

そして上記のような読書環境の整備により、各機器の必要度が下がり、本人により活用の頻度を調整されるようになれば、本人の環境への感度も上がり、支援がより精度を増し、成長に合わせて本人が要求ができるようになっていく。

本人が苦手を補う機会の使い方を覚え、機器を活用した自助により、自分の能力として獲得し、音声読み上げ、OCR機能の活用など、新しい機能のICT機器を知り、常に自分の能力に変換し、人生に活路を開いて飛躍する一助になることができると考えています。

